

施設側の行動

実習に際しての全体のすすめ方

同友会側の行動

5~6月

生徒が自主的に選ぶことで、
言いわけできない状況をつくる

同友会会員と生徒達のミーティングで希望職種を聞き出す
希望が無ければ雑談でもかまわない→befriending

会員2名程度と生徒1人で職員は入らない
1人だと本音を語る

希望職種の会員にアプローチする
どこにお願いするかより
だれにお願いするかを最優先

6~7月上旬

中学校、高校に実習の許可を得る

ボランティア保険加入の準備

施設において実習先企業・会員
と生徒の対面、対談

企業側にも“施設”を知ってもらう

生徒を迎える準備 中学生が授業の一環として
行う実習より、内容の濃いものになる
→企業側も学ぶことになる

7~8月

受け入れ企業に出向き、挨拶を行う
(生徒を伴う)

企業と書面を取り交わす

実習
中学生は3~4日 高校生は企業の一週間
実習中に生徒の会話の質が変わる

1回の実習で受け入れる生徒は1人に
限定することが肝要である
1人に集中する
→施設・学校では1人に集中してもらえない
→pre-befriending

9月

実習終了後、再び生徒と企業訪問し
「ふり返り」を行う ※最終日に行う時もある

施設側が発案→企業との距離が近くなる
→ **職員の意識の変化**

実習発表会
施設で行います

実習先企業も参加する実習におけるクライマックス
生徒はそれぞれ自分の言葉で盛りだくさんの発表を行います
企業側は経営者である会員だけではなく、直接実習を
担当した社員が参加する事も

10月以降

桃山学園では発表に際し職員は
一切アドバイスをしない

生徒が自分の将来を真剣に見据え、自ら
すすんで臨んだ
実習発表は大人のアドバイス等は要らな
いぐらいの質です

・実習先に申し出てアルバイトに入る生徒
・実習先ではないが、自分で探し、面接し、アルバイトを始める生徒
・まだトンネルから抜け出せない生徒もいます

労働＝お金という考え方だけではなく、実習を通して達成感や役に立つ喜び、
頼りにされる喜びを実感してもらう←同友会はこちらを教える
実習先での様々な出逢いも生徒の人生に大きな影響を及ぼすと信じて

自分で探す姿勢こそが
大切です

次の春休み実習に向けて「次はどんな所
で…」と生徒と職員が語り合う
機会ができる→ワクワク感が生まれる

よりよいシステム作りを常に検討する

実習受け入れ候補企業
を拡大する
運動を同友会運動の一つ
と位置づけるようにする

単なるアルバイトだと労働＝お金の
考えから抜け出せない可能性も
ある

卒園後のフォロー
「卒園生を囲む会」の定期開催
施設訪問時に卒園生を呼び、交流を図る
社会生活支援(衣食住についての相談・指導など)

これで良い…は無い!

在園中は衣食住は保証されている。
卒園後が本当の交流になる。